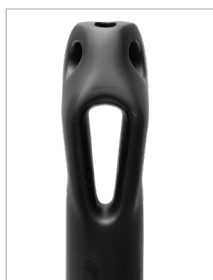


【なまえの由来】

歌曲であれば曲が先か歌詞が先かそれとも同時進行か…、商品名は物が出来てから名付ける事が殆どですが、稀に逆のものもある？かな、と探したところ出てきませんでした。それだけ商品名は後回しということでしょうか。カタチや機能が大事ですね。というわけで、商品誕生において後回しになった名前の由来のお話です。

<人の名前など>

● OnebyESU「カーボン ムンク シートポスト」
ワンバイエスシートポストの1作目にあたるムンク。横から見るとオフセットのあるシンプルな形状ですが、前後方向に空洞を設けました。正面から見るとそれは「エドヴァルド・ムンク」の代表作「叫び」でした。

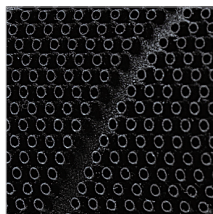


● OnebyESU「ジェイカーボン モンロー」
(グランモンロー～グランモンロー SL)

ワンバイエスハンドルの3作目であるモンロー。複雑な形状に作り込んだモデルで現在はグランモンロー SL として人気モデルとなっています。複雑な形状はグラマラス（魅力的）で、そうならば「マリリン・モンロー」かなと…。因みにグランはより良く設計変更した時に、SL は軽量にアップデートし SuperLight の意味です。

● Veno「ボブ グリップ」

ラバー本体の表面を起毛のように細かく立たせ負荷を軽減する設計です。サンプルを初めて手に取った社員が、このブツブツした起毛の感触からスポンジを連想し、何故だかアニメ「スポンジ・ボブ」となった次第。



● ViVA「カール ステム」と「ルイ ステム」

スレッドステム2作。一方のモデル品番が「KL (=カール)」だったのでベタに「カール ステム」と名付け、もうひとつどうしようかな、となり「カール」といえば「ルイス」でしょ、ということで…。

<ストーリー・意味>

● OnebyESU「スージー ステム」と「ヨゼフ ステム」

長年とてもお世話になっている台湾工場から、初めて挑むステム製造の設計を依頼され、最初なので苦労しました。「スージー」は工場社長の奥様の名前、2作目「ヨゼフ」は社長の名前。どちらも勝手に命名したのですが、ヨゼフ社長の目は「何で俺が後回しの1インチなんや！」と訴えていました。

● Dixna「ラ・クランク」

狭いQファクターや独自の歯数にこだわったクランク。数値へのアイデアと一緒に研究し、その後 JFF#501 開発にもかかわった「福島康司」氏。彼はフランス語が流暢な元トップ選手でしたが、出来上がったから名付けの相談をしたところ、フランス語的に La (ラ) からはじめて楽 (ラク) なクランクに引っ掛けて、ラ・クランクとベタに命名。

● DixnaCross「ニーザー ハンドル」

2014 年当時、まだ奇異に見られたヴェノ「ボーダレスカーボン」からの派生ハンドル。要するに定義付けられないような形状から neither となりました。「これ、なんなん？」なハンドルでした。

<見た目から>

● Dixna「フォーク ステム」(とスリングステム)

ワンピースで 77° のステム。以前にクランプ部が Y 字で「ぱちんこ」に似ていたことから slingshot の「スリング」名のモデルがありました。フォークステムは少し発想が似ているのですが、クランプ部が野球のフォークボールでの指を挟む握り方の雰囲気似ていることで命名しました。



※クランプ先端部分は画像処理しています

● Dixna「アキレス サドル」

アキレスという名称は「アキレスステム」と「アキレスシートポスト」に始まり「アキレスサドル」は5種類のシリーズとなっています。アキレスはギリシャ神話の英雄の名前ですが、急所となったアキレス腱の方が一般的ですね。ステムとシートポストはアキレス腱のようなエッジの効いた設計からの命名ですが、サドルはとても大事な急所（ポイント）に掛けているところがミソです。

● DixnaCross「バンディー ハンドル」

末広がりドロップ。発表の 2014 年当時はランドナーバー以外ほぼ見かけませんでしたので、浸透するのに時間がかかりました。bandy legs とはガニ股のこと。末広がりハンドルを正面から見つめ続けているうちに足のように感じたわけです。ガニ股形状とは言えませんが名称 Bandy のサウンド（響き）が良かったので…。

～製品化に至らなかったシリーズ～

【第3回】製品化に至らず時が経ちました

ワンバイエスフレーム「JFF」のモデル名は数字で表しており、最初のモデルはロードの #501、次に CX の #801 から #807 まで、オールラウンドの #701 があり、数字と製品の因果関係は無く、日本的な縁起のいい数字を採用したわけです。この頭数字 5・7・8、実はその前に「3」がありました。#501 は台湾生産ですが、時（2010 年頃）を同じくして開発した幻のモデルが「JFF#301」です。製造をお願いしたのは、日本と言うより世界を代表するメイドインジャパンの自転車パーツ製造会社。試作車の乗り味はとても良かったのですが、こちらの力量不足で商品化には至らず。但し、この幻のフレームで生み出したジオメトリーが後の「JFF Ti (チタン)」に活かされたのでした。

